

## 能登大地震と羽田航空機事故で亡くなられた方々にお悔やみを、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

元旦、二上山早朝登山から帰宅するとテレビの画面には能登大地震の惨憺たる様子が切れ目なく映し出され、さらに翌2日には羽田空港での飛行機衝突事故が発生。まるで映画のシーンさながらに炎を噴き出しながら疾走する旅客機の映像が繰り返し流された。

心が凍り付く思いで、テレビにくぎ付けの正月だった。そんな中で、旅客機の乗客・乗員全員の救出は不幸中の幸いだった。救出直前の機内の動画、焼けただれた残骸となった機体の画像をみたが、煙が漂う機内で乗客は座席に座っていた。沈着冷静な行動をされた乗員・乗客と関係者の方々に敬意と感謝の意を表したい。

### 能登はどうなったか

能登はどうなっているのか。2年前の能登旅行でお世話になった人々は無事なのか、どうされているのか、私たちが魅了した野生の可憐な花々、心惹かれた各地の風景・風物はどうなったのだろう。

「活動の邪魔にならないか」心配しながら打っていた安否確認メールに、6日になって輪島の邑田さんから返信メールが届いた。「皆さんと一緒に昼食をした市街地はほとんどが全壊・半壊。連日余震が続き、いつ終わるかわからない。でも、みんなで力合わせ頑張っている」との内容だった。後日の報道で邑田さんが友の会会長をしている輪島診療所で、自宅も被災している職員たちが懸命に患者訪問している記事を読んだ。ここにも敬意と称賛に値する人たちがいるのだ。

私たちがまず募金活動を始めなければと思い直した。

### 健生会の医療支援・激励、共産党の支援カンパ活動

健生会では土庫病院のS医師が、地震発生直後に現地に飛び、医療活動、全国

からの支援のまとめ役をしておられるが、その後も医療チームが交代しながら現地に赴いている。また支援と現地の状況を知らせる「災害対策ニュース」も発行され、職員・友の会会員、患者さん等に募金を呼び掛けている。募金は石川民医連から被災自治体、被災された人々に届けられる。

日本共産党は地震発生後、直ちに「災害対策本部」を立ち上げ、全国の党組織に支援募金活動と呼び掛けたが、同時に各地の議員団や党支部で募金

活動が取り組まれている。集められた募金は共産党各県委員会を通じて被災自治体に届けられる。

### 厳寒・積雪のなか被災者の救援を急いで

厳寒の中、懸命な救出救援活動に携わっておられる地域の人々、自治体職員、消防団、自衛隊、ボランティア、医療関係者の方々、本当にご苦労様です。何もできない遠隔地の老身、ただ、ただ感謝。

### これでいいのか、日本の災害対策!!

しかし、しかしだ。寸断されるライフライン、少ない避難所と不足する備品や必需品、露呈する人員不足。これでいいのか。いい筈がない。今こそ声を大きくして言いたい。

### 莫大な軍事費を削って災害対策を!! と

←ククザキイチリンソウ(ユキワリソウの仲間)



↑能登の雑木林に自生しているオオミスミソウ(ユキワリソウ)



↑スハマソウ(ユキワリソウの仲間)



うだしはいばら いなさま いだにだけ  
**宇陀市榛原の伊那佐山から井足岳へと歩く**

1月11日、天気予報は曇りのち晴。宇陀市榛原にある伊那佐山と井足岳に登ろうと思いたち、近鉄電車を出かけた。近鉄榛原駅前8:33発のバスは8:42比布バス停着。標識に従って、芳野(ほうの)川沿いの道を歩き、竹橋という名の橋を渡り、さらに榛原山地めざして上っていく。

**静かな山村の道を上る**

伊那佐山山麓～山腹に散在する村々は静かで、通る人も見当たらない。しかし、要所要所に「伊那佐山」案内板があり迷うことはない。

村落のはずれから山道に入っていく。

**趣のある丁石にも導かれて**



よく手入れされた杉林の中、登山道は曲折しながら昇っていくが、草刈りがされており、気持ちがいい。案内板に加えて立派な丁石(ちょういし。1丁=約109m=ごとに建てられた道しるべ)が山頂までの距離を教えてくれ、一人歩きの来訪者に安堵と勇気を与えてくれる。

**出会った唯一の登山者**

左の写真には「右 嶽大明神 是より5丁」と彫られている。ここで後ろから来た、70歳の男性に追いつかれた。この日出会った唯一の登山者だ。この山によく登っていると言う。

この山の山頂には立派な神社が建っている。この山は古代には「神武東征」神話



↑伊那佐山山頂近くの登山道で

にまつわる山として「記紀」にも記載されており(奈良山岳会編「青垣の山々」)、その後も雨乞いの山として、地域の人々に大事にされていると言う。立派な丁石と手入れの行き届いた道がそれを示している。10:20 やっと頂上着。標高637m

**人々の願いが込められた絵馬**

手水鉢(ちょうずばち)の水には分厚い氷が張っていたが、頂上広場は温かく、西側の展望が開けていた。

そして社殿の柵には、多くの絵馬が架けられている。東になっている絵馬の上には、木の香も新しい物も混じっている。



**木の香も新しい絵馬には**

年号を見ると、今年納められたものだ。何とはなしに覗いてみると「健康、家内安全、合格祈願」など

に混じって「物価安定」「世界平和」「戦争終結」などの文字がいくつも見られる。

**平和こそが人々の願い**

ウクライナ、ガザでの戦争は多くの人々を悩まし、その終結と平和をこそ世界中が願っている。人々のこの思いを逆手にとって、武力による抑止力強化を振りかざして軍備増強を強行する自公・維新の政治は国民からの批判を免れないだろう。私たちは今こそ「日本国憲法に基づく平和の外交で、戦争停止・話し合いを」「軍備増強よりも暮らし・教育・災害対策に予算を使え」の声を高めなければならないと思う。

**もう、無茶、無理はできないのだ**

伊那佐山から北へ、井足(いだに)岳目指して歩き始めるが、スピードはがた落ちし、12:40 井足岳着。榛原駅までヨロヨロと歩いた。人の目など気にしておられない。もう無茶が出来ないのだと痛感した山歩きだった。

